

奄美・沖縄航路の拠点機能の強化 ～鹿児島港新港区～

鹿児島港新港区の整備

奄美・沖縄航路の拠点機能の強化を目的に、平成23年度から進めてきた鹿児島港新港区の整備が、令和2年6月末に完了しました。

これにより、旅客の安全性・利便性や荷役作業の効率性の向上が図られ、世界自然遺産に登録された奄美大島・徳之島を含む奄美群島の観光、産業の振興に大きく寄与することが期待されます。



整備前の課題：昭和40年代に整備されてから40年以上が経過し、建物や岸壁の老朽化が進むとともに荷役作業のスペースが不足

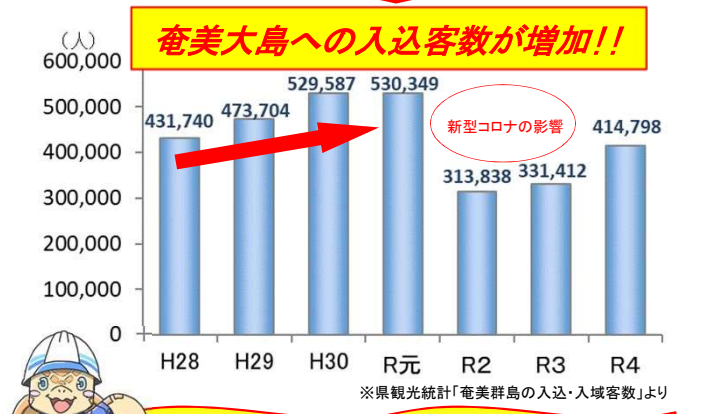
奄美・沖縄航路

鹿児島港新港区
取扱貨物量
：約200万トン／年
フェリー利用人数
：約13万人／年

鹿児島港は、海上の物流拠点として、また、離島航路等の発着場として、県内外の人流・物流の中心的役割を担っています。

- ・耐震強化岸壁 (H26供用)
- ・ボーディングブリッジ (H26供用)
- ・フェリーターミナル (H26供用)
- ・フェリー岸壁 (H28供用)
- ・ふ頭用地 (R2 供用)

- ・旅客の安全性・利便性の向上
- ・荷役作業の効率性の向上



奄美群島の観光、産業の振興

旅客の安全性・利便性の向上

旅客と荷役が輻輳

急なトラップによる乗降

ボーディングブリッジを整備

旅客と荷役の分離

誰もが安全に乗降

荷役作業の効率性の向上

狭隘な荷役スペース

ふ頭用地の埋立

荷役スペースの拡大(1.5倍)